

B 63 フレアースカートの揺動性に関する研究

仙台白百合短大 ○須田博子

日本女大家政 樋口ゆま子

目的 フレアースカートは、他のスカートとは異なり、着用時に、様々な要因を含んだ特徴的な衣服形態を示している。一つの型紙で作製されたスカートのフレア感には、素材の物性、着用者の体型などにより、異なり、動作時や歩行時では、布の揺動が加わり、形態はさらに複雑に変化する。フレアスカートのフレア形状に影響を及ぼす因子は多く、従来、素材特性や官能量による研究が行われている。そこで、本研究では、着用時のフレアスカートの揺動状態を、三次元的に把握することにより、フレア形状の数値化を試み、衣服構造特性の情報を得ることを目的とした。

方法 試料として、綿3種、ウール2種、ポリエステル、の計6種を選定し、型紙は、円弧法を用い、前後中心バイアス方向の8枚ほぎのフレアースカートを作製した。スカート丈は一定にし、フレア分量は、フレア形状の計測が可能な裾まわり寸法2mとした。標準サイズの被験者一名に、6種のフレアースカートを着装させ、トレッドミル上を自然歩行させ、ビデオカメラを用いて、前方及び側方からの撮影を行ない、歩行時のスカート形態変化を、画像解析により、素材別に比較検討した。

結果 歩行動作に伴うスカート形態変化を検討した結果、フレアスカートの揺動に、強制振動における共振の現象がみられ、歩行の際のひざのけりだしにより、最も揺動するスカート上の点の経時変化を、素材に固有の揺動特性としてとらえることができた。